

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403327		
法人名	グループホーム 我が家		
事業所名	有限会社 アロー商事		
所在地	福島県いわき市平字橋下1番地 (電話)0246-27-3197		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.11.13	評価確定日	H20.12.25

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤0人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 82.37歳	最低	68歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	須田病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物は、カラオケボックスをリフォームしたものだが、中は明るく使いやすく過ごしやすい生活空間が作られている。共有スペースや各居室もセンスある飾り付けなどで雰囲気が良い。管理者を初め職員一人ひとりが理念を大切に日々利用者と接している。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 全体ミーティングで話し合い、レクリエーション・環境整備・入浴についての各委員会を立ち上げ、サービスの改善に取り組んだ。さらに、記録については、他事業所から情報を得たり、前回の評価で学んだことを活かし整備した。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 職員4人程のグループを作り担当を決め、小ミーティング(週3回開催)で自己評価に取り組んだ。その結果、何に取り組むべきか課題を明らかにすることができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5) 運営推進会議は、地域包括支援センター職員、老人会会長、保健福祉専門委員、消防設備管理会社職員、地区代表、利用者家族、管理者、ケアマネジャー、介護職員などが参加し2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センターより老人会を紹介してもらい、年間行事を通して交流や祭りの協力を得るなどの信頼関係を築いている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 苦情解決細則を作り玄関に苦情箱を設置している。職員は、家族の面会時にできるだけ声をかけるようにし、意見を聞く機会を作るよう心がけている。意見や要望は、すぐに職員間で話し合い対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設付近を散歩している方と話をしたり、お茶飲みに誘うなどの交流がある。また、利用者と美容室や買物へ行き、地域の方と触れ合う機会を作ったり、中学生のボランティアの受け入れも行っている。12月28日のもちつき大会を年々少しずつ規模を大きくし、現在は地域の方も参加できるようにしている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時は、難しい言葉で内容もわかりにくく理念に基づいた運営が行えなかったことをふまえ、今回は改めて職員全員で話し合い「自由・ふれあい・安らぎ」という理念を作り上げた。その中でも「自由 自分らしく生きる」ことを大切にしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は朝の申し送りの際に唱和し、ネームプレート裏に掲げ、常に確認できるようにしている。実際には、自由 利用者の意思を尊重し接する。ふれあい 挨拶する時や声掛けの際、手を握ってスキンシップをとる。安らぎ ゆったりとして過ごしてもらうようにするなど、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設付近を散歩している方と話をしたり、お茶に誘い一緒に過ごしている。利用者と美容室や買物へ行き、地域の方と触れ合う機会を作っている。また、中学生のボランティアの受け入れも行っている。12月28日のもちつき大会を年々少しずつ規模を大きくし現在では地域の方も参加できるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を基に、全体ミーティングで職員全員で話し合い、レクリエーション・環境整備・入浴の各委員会を立ち上げ、担当を決め改善に取り組んだ。今回の自己評価は、職員4人程のグループで、担当制とし小ミーティング(週3回開催)で話し合いを行った。その結果、何に取り組んでいけばよいか課題を明確にすることができた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、地域包括支援センター職員、老人会会長、保健福祉専門委員、消防設備管理会社職員、地区代表、利用者家族、管理者、ケアマネジャー介護職員などが参加し2ヶ月に1回開催している。地域包括支援センターより老人会を紹介してもらい、年間行事を通して交流や祭りの協力を得るなどの関係を築いている。</p>		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の様子の写真が入った「我が家だより」を年4回発刊し、家族へ送付して報告している。その他、状況に応じて電話や面会時に報告している。次回からは、担当の職員のコメントも入れ、さらに各利用者の様子がわかるよう報告する予定となっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情解決細則を作り苦情箱を玄関に設置している。職員は、家族の面会時にできるだけ声をかけるようにし意見を聞く機会を作るよう心がけている。意見や要望は、すぐに職員間で話し合い、対応をしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は、2ユニットのためどちらでも勤務ができるように、情報の共有や職員のレベルの統一ができるように、一人ずつ入れ替えを行っている。異動があった場合は、全体レクリエーションを通じて馴染みの関係が作れるように配慮している。離職者を出さないようにするために、社会保険の加入や親睦会を行い、生活の保障や職員同士の良い関係作りを行っている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、認知症介護実践者研修などに参加したり、救急蘇生法の研修は全員が受講できるようにしている。研修報告会は、全体ミーティングにて行い、資料はいつでも閲覧できるよう職員休憩室に置いている。身近な開催場所での研修の情報は、常に知らせている。職員のレベルに合わせた研修に参加させてはいるが技術に個人差が見受けられる。	○	個人ごとに目標を明確にしたうえで、ミーティング等における職場内研修や個別指導の充実を図ってほしい。例えば、現在、管理者が中心となって行っている介護技術や接遇などについては、職員一人一人が担当し研修を開催することによってレベルアップにつながると思われるので取り組んでほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加したり、近くにある「グループホームニチイのほほえみたいら」の運営推進会議に参加させてもらったり、記録の方法について情報を得て学ぶなど質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	散歩や談話する時間を持つことで利用者一人ひとりの話に耳を傾け、料理の仕方や昔話を教えてもらっている。また、利用者から「ありがとう」「あなたがいてくれて良かった」などねぎらいの言葉をかけてもらい仕事をする喜びを利用者から与えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	洗濯物たたみや散歩の時などを利用し少人数でゆっくり話をする時間を設けたり、認知症介護研究・研修東京センター方式を用いたりすることで利用者の思いを把握するよう努めている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見は面会時に聞き取りを行い、利用者と担当者とケアマネジャーなどが参加し担当者会議を行い、介護計画について話し合っている。職員の意見が反映された具体的な内容の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の記録が介護計画に沿って記入されており、一人ひとりの気づきや変化を記入し、それを一日3回の申し送りでも報告している。週3回の小ミーティング、さらに月1回の全体会議でケアマネジャーと職員が話し合い現状に即した具体的で詳細な内容の介護計画を作成している。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族も利用者の状況が把握できるように、かかりつけ医への受診は家族の協力を得ながら行っている。かかりつけ医への受診が困難になった場合は、協力病院への受診を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に利用者と家族へは、医療的なケアが必要な場合は事業所では対応できない旨説明している。利用者・家族・かかりつけ医・職員と話し合い、全員で支援方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、事務所内の扉が付いている書庫に保管し、事務所は夜間は鍵をかけている。プライバシーについては、部屋へ入る時は声をかける、入浴時に、裸のまま外へでることのないよう対応している。しかし、トイレの戸が開いている状態で排泄している利用者がいても、そのままになっている。	○	トイレの戸が開いている場合は、職員が声をかけそっと戸をしめるなど、心がけてほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事は一人ひとりのペースに合わせている。利用者の希望に対しては、その時に対応できることは対応し、どうしても困難な時は「なぜできないのか、いつだったらできるのか」を説明し、できるだけ早く希望を叶えられるよう心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備・食事・片づけを行っている。食事中は、なじみのある音楽(唱歌など)を流し、和やかな雰囲気を作っている。また、利用者一人ひとりの状態を把握し、箸やスプーンを使えない方へはおにぎりにして自力で食べてもらえるよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が担当で入浴委員会を作り、1ヶ月に1回利用者一人ひとりの希望に合わせた予定を作っている。毎日、夜間、一日2回の入浴などいつでも対応できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	職員が担当で環境整備委員会を作り利用者と一緒に草むしりを行ったり、洗濯物たたみ、調理、レクリエーション、カラオケなど一人ひとりに合わせた役割や気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を聞き、毎月外出予定表を作成し、午前・午後少人数で散歩や美容室や買物ができるように支援し、外出はほぼ毎日行われている。予定表以外でも、その都度利用者の希望があれば外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、センサーを設置しているが、鍵はかけていない。利用者の一人ひとりの日々の状況を把握し、外へ出かけたいたい気配がした時は、職員同士声を掛け合い見守ったり、一緒に外へ出るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回消防団立会いで、日中の火災を想定した避難訓練や防災設備業者の協力で消火器の使い方を学んでいる。職員はいつでも災害時マニュアルを閲覧できるようになっており、消防署との直通電話の設置もしている。施設の上は、住居になっており管理者・職員・一般の住人が住んでおり、いつでも協力できる体制になっている。しかし、夜間想定訓練や地域住民の協力を得た訓練は行われていない。非常時のための食料や飲料水の準備は行われていない。</p>	○	<p>運営推進会議を通じて、災害時は近隣地域住民の協力が得られるよう働きかけを行ってほしい。また、夜間想定訓練や非常時のための食料や飲料水の準備も行ってほしい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量は毎日記録している。食べる時間や食べ方は利用者一人ひとりに合わせて行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペース、台所などは、明かり取りの窓が作られており、壁などには手作りのちぎり絵や写真などが雰囲気よく飾られている。ソファの所につい立を置くなどくつろぎのスペースを確保している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、位牌・写真・習字を飾り、筆筒はそれぞれ自分が使っていたものを持ち込んだり、畳に布団を敷いたりベッドを使ったりと居心地の良く過ごせるよう工夫している。</p>		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 我が家

記入担当者名 鈴木 英満

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。